日頃からため池を管理しましょう

■ため池の草刈り

堤体上の雑草は、ため池の亀裂や陥没、変形、モグラの穴などの変状を確認する上で妨げになります。 年に数回程度は草刈りをしましょう。

また樹木類は幼木のうちに必ず伐採しましょう。

■余水吐の管理

余水吐はため池の規定水位を保つための施設であり 余水吐に土のうや角落とし等で堰上げをし貯水量を増大することは ため池の決壊を招く恐れがありますので絶対にやめましょう。 また、余水吐に流木やゴミがある場合や草等が茂っている場合は 洪水の流れを妨げますので除去しましょう。

- ※ 大雨や局地的豪雨、地震があった場合は、十分に注意しながら ため池の監視を行って下さい。
- ※ 現地で行動する際は、安全確保のため、必ず2人以上でおこなって 下さい。

※ため池の異常をいち早く報告しましょう 地域でため池を管理していくことが大切です!

大師による信め趾の熱質

地域によって異なりますが、1時間に20ミリ以上、また降り始めから80ミリ以上の雨が続いたら、災害の危険性が高くなります。浸水対策を含め、十分な警戒が必要です。

〈豪雨によるため池の被災メカニズム〉

被災メカニズム 被災形態 《浸透破壊》 堤体内部が劣化して、水を遮る機能が低下 すると、貯水位が上昇した時に堤体の中の水 パイピングホール 圧も上昇して強度が低下し、破壊する場合が ある。また、堤体内に上流から下流に向かう 水みちが発生し破壊する場合がある。 《すべり破壊》 貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、 堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面部の 強度が低下することによって、法面部ですべ りが発生し破壊する場合がある。 - 貯水からの浸水 《越流破壊》 豪雨により、貯水位が急激に上昇し、堤体 越流 を越えて流れ出すと、下流斜面を流下するこ 越流侵食 とによって、破壊する場合がある。また、貯 水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、 強度が低下して破壊する場合がある。

※ 大雨の時 は、河川の氾濫 ゃ 河川堤防の決壊、 土砂災害 も 同時に起きる 可能性があります。

■漏水の確認

「漏水等の確認のため定期的な巡視を行いましょう。 漏水があっても直ちに危険ということにはなりませんが堤体材料が 混じった濁りが見られた場合は特に注意が必要です。 貯水位を下げて総社市役所へ相談して下さい。

■貯水位の適切な管理

長期間にわたり落水していると堤体に亀裂が生じることがあり、 この状態で急激に貯水位を上昇させると浸透水で破堤する場合が あります。逆に満水状態から急激に貯水位を低下させると堤体が すべりを起こすことがありますので適正な管理をしましょう。

異常に気がついたら<mark>総社市役所へ</mark>連絡 して下さい

(0866) 92-8200



地震による信め地の決察

(地震によるため池の被災メカーズル)

〈地震によるため池の	の被災メカニズム〉
被災形態	被災メカニズム
《クラック》	堤体の頂部などにクラック(亀裂)が発
<u>₹</u>	生する場合がある。堤体の上下流方向に生
= 41	じるクラック(亀裂)は水みちとなること
	があり、特に注意が必要である。
《沈 下》	堤体の形状をほぼ保ち、クラック(亀裂)
Z T-4-1	などを伴いながら堤体が沈下する場合が
	ある。多くは軟らかい地盤で発生してい
	る。
《斜面崩壊》	堤体法面の上部が沈下し、下部がはらん
<u>⊽</u>	で変形が生じる場合がある。
《斜面すべり》	地震動により堤体の法面にすべりが発
	生する場合がある。
《崩壊》	堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する場
V	合がある。決壊に至ることが多く、堤体や
- IN TANK	基礎地盤の液状化によるものと考えられ
	る。

※ 地震による決壊は、地震の揺れを原因として 一気に起こる場合と しばらく時間が経過した後に起こる場合があります。

災害時の備え・注意点

家庭内では

- 気象情報や、防災関係機関等の広報をよく聞いておきます。
- 状況によって、遠出や外出は中止します。
- 避難場所及び避難経路について再確認します。
- 勤務先にいる家族などと連絡をとり、非常時に備えます。
- 家財道具・食料品・布団・衣服など生活に欠かせないものを安全 な場所へ移動します。
- 寝室や高い所へあまり物をおかない。

用意しておくものは

- 3日分以上の非常食(調理不要なカップ麺やレトルト類)、 飲料水を用意して、断水や濁り水に備えます。 ※飲料水は乳幼児や病人がいる家庭では特に必要です。
- 懐中電灯を家族に応じて準備します。また、正しい情報を聞くためにラジオの用意もします。 ※予備の電池も忘れずに。
- 大工道具も用意しましょう。

